

基本手順に基づく作業一覧

ステップ	フェーズ	目的	自社の作業
1	準備	<ul style="list-style-type: none"> パッケージ導入の自社としての作業基盤をつくる。 目的達成のために必要な情報を集め、整理する。 自社に合った基本手順と体制を決める。 自社の弱みを把握し、対策を講じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体制、基本手順、予算を決める。 現状の課題と問題点及び弱みを整理する。(管理、業務、システム、顧客、取引先、実行体制) パッケージ情報を集めパッケージ商品の候補を決める。(パッケージ、ベンダー、他社事例、情報技術)
2	課題解決	<ul style="list-style-type: none"> 解決するための方策を決める。(パッケージ対応、業務ルール・仕組みの改善など) パッケージ以前の課題解決策を実施する。(パッケージ対応、業務ルール対応) 	<ul style="list-style-type: none"> 目的達成のために必要な課題の解決策を作成する。(システム対応、業務ルール、運用改善など) 基本手順、作業での課題を明らかにして解決策の実施フェーズを決め、実行する。 <ul style="list-style-type: none"> 課題解決策フェーズ (自社のみでの可否) 要件定義・Fit&Gapフェーズ パッケージ導入(カスタマイズ)フェーズ
3	選択	<ul style="list-style-type: none"> ベンダーの選択を行う。 パッケージ商品の選択を行う。 選択の手順とスケジュールを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> 提案依頼書(RFP)の作成を行う。 提案書を受理し、プレゼンを行う。 ベンダー情報の整理をして、選択を行う。 パッケージ商品情報を整理して、選択を行う。 要件定義・Fit&Gapフェーズ以降の自社体制を確定させる。必要作業の洗出し・整理も含めて。 選択基準を決め、メンバーで合意し実行する。
4	要件定義 Fit&Gap	<ul style="list-style-type: none"> システム機能に必要な要件・基本定義を行う。 パッケージ導入後の業務処理、管理内容を整理する。 パッケージ機能に対するカスタマイズ・アドオンを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要なシステム要件・基本定義を決める。 必要なシステム機能の優先度を決め、最終のシステム機能を決める。 最終費用(予算)の確定を行う。 基本スケジュール、稼動時期を決める。 残課題の対応方法をきめる。
5	パッケージ導入 (カスタマイズ)	<ul style="list-style-type: none"> カスタマイズ、アドオンによるシステム追加作業を決める。 パッケージの持つシステム機能との整合性の検証を行う。 目的達成、期待効果からの検証を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> システム機能、操作性、システム連携などの設計の内容を確認する。 要件定義、Fit&Gapフェーズの作業結果をシステム機能に反映する確認を行う。 経営者、マネージャ、担当者の立場から、システムが業務処理、管理内容、事業強化に貢献できることを確認する。
6	パッケージ導入 (テスト・品質)	<ul style="list-style-type: none"> 新たなパッケージのシステム機能に関する業務・管理・運用面からの検証を行う。 ストレス、性能、障害などのシステムインフラに関する検証を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> システム機能、操作性、システム連携などのテスト確認を行う。(不具合、問題点、正常確認・・・) 業務処理、管理内容、情報活用、運用などの面からテスト検証を行う。(体制、スケジュール、テスト計画、テスト管理)
7	稼動準備	<ul style="list-style-type: none"> 社内外に対してのシステム稼動の案内を行う。 移行するデータ類の移行と切替作業を行う。 教育研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 社内外への情報提供すべき内容をまとめて、関係者への周知徹底を行う。 業務ルール、業務処理などの改善点を整理し、関係者への周知徹底を行う。 新システムに関する必要資料を作成し、教育研修を実施する。 移行処理、切替処理の計画と管理方法を決めて、実施する。
8	稼動	<ul style="list-style-type: none"> 安定稼動を軌道に乗せる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題、障害の対応を行う。 ヘルプ体制の運営を行う。

* 1 フェーズ(作業工程)の名称・組み方は多少ベンダにより、異なります。

* 2 パッケージのシステム機能の適合度により、フェーズ構成なり作業内容も変わります。

* 3 ベンダ提案での作業内容の役割分担を確認し、自社の責任範囲をおさえることです。